



リフレッシュ

宮川俊平

体育科学系助教授

新しい発見

昨年12月9日の朝、つくばの町は大雪？にみまわれた。いつもは車で大学に行くのだが、普通のタイヤでは危ないのでバスで行くことにした（初めて？）。7時21分発の自宅近くの停留所からつくばセンターに行き、そこで大学行きのバスに乗り換え、8時前に大学に着いた。いつもより15分程度早く家をでる程度で、多少時間に制約されるがそれほど不便さは感じなかった。むしろ新しい発見が多かった。つくばセンターで大学行きのバスを待つ間にいろいろな人と出会う。車通勤にはない触れ合い？である（都会の通勤の混雑は御免であるが）。

時間

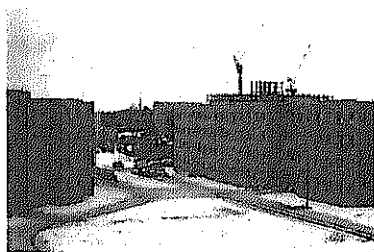
1996年10月から保健管理センター（通称：ほけかん）を担当とすることになった。当初は医学系とほけかんの間を車で移動していた（近くの駐車場をもらうこ

とができた）。と言うのも、大した距離ではないが「便利さ」と「歩く」あるいは「学内バスを使う」面倒くささからであった。筑波大学に来てから（昭和49年入学して以来）今まで「車社会」に慣れ過ぎ、車の不便さをかえりみなくなっただけから久しい。駐車場に行きエンジンをかけ、車を走らせ、ほけかん近くの指定駐車場に止めて5分位歩いてほけかに到着する。医学系からほけかんまで車で移動しても10分位かかる。徒歩だと15分位である。自転車だと急いで行けば5分くらいで到着する。そうこうしているうちに、ほけかんに行く手段を少し考えはじめるようになった。確かに荷物があると自転車はつらい、車を動かすと燃費が悪くなると考えているうちに「学内バス」があることを思い出した。30分おきで、長期休業の間の運行がよくわからなかったので深く考えていなかったが、もう一度考えてみると、以外に便利であること

に気がついた。医学専門学群の停留所8時49分発の学内バスに乗り、帰りは大学会館前13時49分のバスで戻る。バスに乗り遅れることがある（数十秒の差で）がその時はあきらめて歩く。学内バスをうまく利用すると学内を車で移動しめるところ（ほけかん以外の場所に行くときに）を探す煩雑さから解放される。医学系での「医者の不規則」を理由に車の便利さを自分の中で主張してきたが、そんなに不便さは感じなくなっていた。学内移動に車を利用しなくなってから（全く利用しなくなった訳では無いが）気がついたことは「時間的にはあまり変わらない」と言うことである。学内バス等をうまく利用すれば学内の移動はどうってことがないようだ。

景観の変化

ほけかんから体芸棟、橋とループ道路を渡り、平砂・追越の宿舎を歩いて医学系に戻ることも多くなった。歩いていると約30年前の入学した当時のことを思い出す。入学した当時は平砂学生宿舍（写真）と体芸棟と総合体育館しかなかった。周囲は「林、林、林」だけであった。平砂学生宿舍から体芸棟まではいわゆる「獣道」的な道があるだけで、雨が降れば泥んこ、宿舎間も整備されてい



1975年冬撮影。平砂宿舎を共用棟から写した。右奥には建設中の病院のクレーンが見える。中央奥は建設中の追越宿舎。宿舎の中庭？はまだ整備されていない。

かった。「長靴」が必須アイテムであった。今では医学系があり、宿舎内も整備され春は毎日花見ができる。天久保池の橋も広くなり体芸棟から北の道・建物（入学した当初は体芸棟の北は絶壁）も整備された。いわゆる「キャンパス」が完成（かなり前だが）している。車で移動していたら味わえない雰囲気である。前ほけかんセンター長武藤弘先生は健康のためかずいぶん前からほけかんへは歩いて通っていたようだ（えらい！）。ほけかんには学内での交通事故（自転車同士あるいは自転車と人）で怪我をしてくる学生が受診して来ることがある。事故に合った場所を聞くと以前は（車で移動していた頃）ピンとこなかったが、自転車や徒歩で学内を移動していると「あそこは事故が起きそうだ」と言うことが実

感できる。その場所は学生の往来が激しいが、雨の日・晴れの日・季節によって様々な状況の変化がある。実際に自転車や歩いてその場所をとると「なぜ起きたか」が良くわかる。

ひらめき

バス停で学内バスを待っている時（定時より少し早く来ることもある）、いつもではないが路線バスが2～3台通り過ぎる。このバス（路線バス）に乗れば病院入り口のバス停に止まるが初乗り運賃160円？かかる、ばかばかしいと考えながら学内バスを待つ。学内バスがなかなか来ない。そうしているうちに反対側に学内バスが来た。ここで初めて乗り遅れた事に気がつく。しかたがないので歩いて医学系に向かう。その道中路線バスに乗れば良かったか、もう少し路線バスが安かったらあるいは学内は職員証あるいは学生証を見せれば「無料」だったら良いのになどと考えながら歩いた。歩いていると車に乗っていたときよりも（？）ひらめきが多くなったような気がする。路線バスをうまく利用できないだろうか、学内を安く乗れるようにしたらよいのでは（私の後輩向井直樹講師の案であるが）、学内では多学系にまたがるたくさんの委員会がある。私もいくつか委員に

なっている委員会がある。そのような委員会に行くためにバス停でバスを待っているとき「迎えに来てほしいなあ…」、車は便利か！「委員会のために駐車場を確保してくれたら良いのに」等と思う。人は便利すぎると物事を考えなくなる。ひらめきのために「歩くか！」。

日進月歩

最近変わったことと言えば、入学以来空き地あるいは林だったところが「あっ」と言う間に更地になり建物の建造が始まった事である。一つは体芸地区の体育科学系棟とテニスコートの駐車スペース（学内移動の時によく使用したが）と、平砂宿舍の北の端（共用棟のすぐ北）・ループ道路のすぐ南の林である。ここらあたりは開学当初の面影があったところである。ほけかん以北は学園祭以外はなかなか行く機会はないが一期生からすれば全く様相が変わった地区ではある。一の矢宿舎は当時画期的であった「夫婦棟（正確な名称は忘れたが）」が建てられたところであった。私には兄がいるが他大学を卒業後私より二年遅れて（決して私よりできが悪いのでは無いので誤解の無いように）医学専門学群に入学した。その後、学生結婚をしてその「夫婦棟」に暫く収まっていたので私も

一の矢方面にはよく行っていたが、二学・三学地区はなじみが薄かった。やはり車で通過するだけであつたせいであろうか…。しかし、一般住民からすれば学園都市が建設されたこと自体が大きな大きな衝撃であつたに違いない。

打倒マンネリ！

学園都市の誕生とともにここに住み続けているとちょっとした変化に気がつきにくくなるものである。もし以前から学内を歩いて移動する習慣があつたらもう少しこれらの変化に気がついていたかもしれないと思う。学系の一室に籠もっていたり、病院での診察・手術・研究？ば

かりしていたのではこれらの変化に気がつくことは少ないだろうと思う。いろいろな委員会の委員を担当することが多くなってきたが、これらの委員会に出席するために所属学系を離れ、別の場所に移動するときが、これらの変化を感じられる時かなあと思う。もちろん移動は学内バス・徒歩あるいは自転車である。もしかしたらこの移動する時間が息抜きになりあるいは心身のリフレッシュになるかもしれない。いままでみえてなかった自分自身の「システム」の不具合に気がつくかもしれない。

(みやかわしゅんぺい スポーツ医学)

